



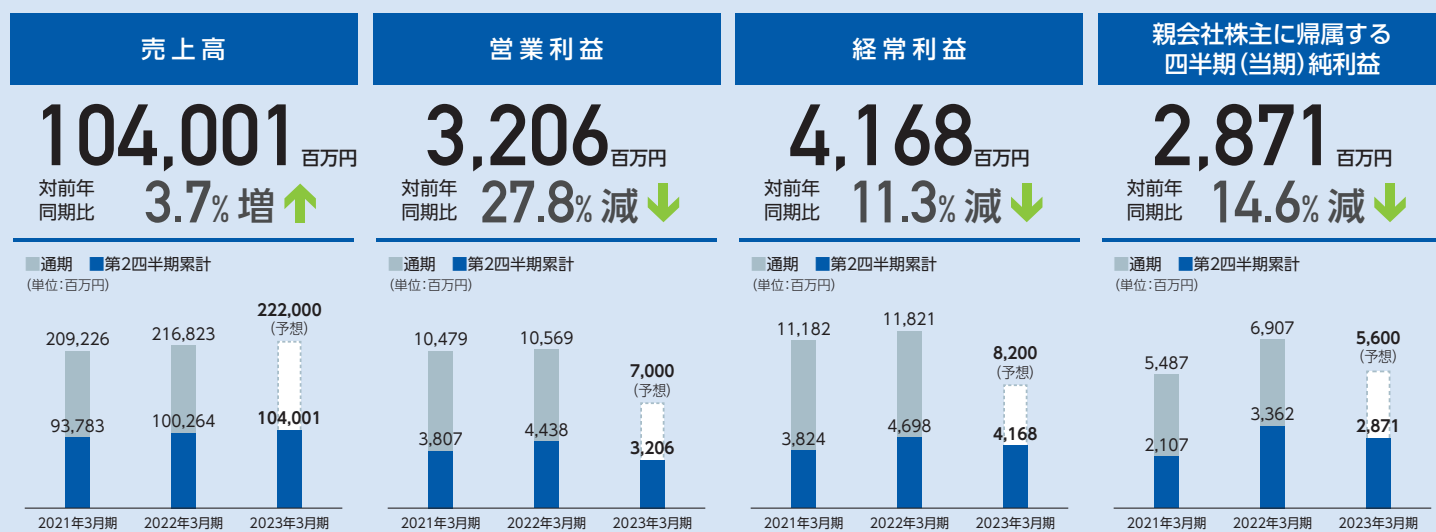
それじつは、
シンメイワ。

大きな川も、名もない川も、
ずっと、ひとの暮らしと共にあります。
万が一の水害に備えた排水ポンプも、
じつは、新明和工業です。

第2四半期 連結業績ダイジェスト

ココが
POINT!

- 売上高** 「特装车」「その他」を除く全てのセグメントが増収となり、全体では増収
- 利益** 増収、円安効果があったものの、資材価格上昇の影響などを受け減益



通期業績予想

項目	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり当期純利益
7/29予想	225,000百万円	9,000百万円	9,200百万円	6,000百万円	91円14銭
10/31予想	222,000百万円	7,000百万円	8,200百万円	5,600百万円	84円96銭
7/29予想比	↓	↓	↓	↓	↓

いつも当社グループをご支援いただきまして誠にありがとうございます
でございます。

新型コロナウイルス感染症はいまだに収束せず、世界経済も
さらに不安定さを増す中、鋼材を中心に部材価格の高騰や半導
体不足に起因する電気部品の長納期化といった状況が半年前よ

り顕著になっております。

幸いなことに、受注状況は全般的に高水準を維持しておりますので、サプライ
チェーンの復調に伴って業績は好転すると確信しております。

足元では、長期経営計画[SG-Vision 2030]の第1フェーズにあたる中期経営計画
[SG-2023]の中間点を過ぎ、最終年度が視野に入る時期を迎えておりますが、「長
期ビジョン」を志向する中、サステナビリティ経営の推進体制確立に腰を据えて
取り組むことが大切と考えております。こうした中、今春、本社内に、新事業創出
の専任部隊として「新事業戦略本部」を設置いたしました。新事業が立ち上がり、
業績に寄与するには今しばらく時間を要しますが、この半年間で他企業
とのアライアンスを伴ういくつかの案件が前進し、手応えを感じております。

また、9月末には「統合報告書 2022」を発行いたしました。これまで株主
の皆様には事業活動を中心に説明してまいりましたが、ステークホルダー
に心を向けた諸活動を通じて、持続可能な価値を創造し、社会と暮らしをよ
り安全、便利、スムーズに変えていく存在になりたいと思っております。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社グループをご支援たまわり
ますようよろしくお願い申し上げます。

取締役社長

五十川龍之



新事業創出に向けた取り組み

「新事業戦略本部」では、既存事業とは一線を画した新たな事業の創出に取り組んでおります。
この半年間に、複数のテーマを対象に事業性・将来性など検証を行う中、

- 1 「リサイクルCFRP（炭素繊維強化プラスチック）」を用いた流体製品を試作
- 2 水問題をインフラ構造からとらえ、解決に挑むWOTA株式会社殿（以下、WOTA）に出資
など、具体的に進捗したテーマもあります。

1 リサイクルCFRP

（炭素繊維強化プラスチック）の製造・活用技術

CFRP（炭素繊維強化プラスチック）は、軽量・高強度な
特性を持ち、航空機分野などで多く使用されており、自動車
分野や風力発電分野などで需要の急増が予想されております。

一方、CFRPは製造過程で多くのCO₂を排出し、また、加
工過程で発生する端材の廃棄処理にかかる環境負荷が大き
な課題となっております。

当社の流体事業部と航空機事業部は、富士加飾株式会
社殿（本社：兵庫県小野市、以下、富士加飾）が持つCFRPの
再生技術に着目、同社との協業を通じてCO₂排出量・環境
負荷低減を目的にリサイクルCFRPの製造・活用技術の確
立に取り組んでおります。その成果の一つが、今般の流体
事業部の主力製品「縦型低動力攪拌機」のプロペラの試作
品です（本紙「流体」欄に関連記事）。

2 WOTA殿への出資

当社では、人口密度が低い地域に適した上下水イン
フラが必要と考えており、その中で、新たな上下
水インフラの提案と普及に取り組むWOTA殿（本
社：東京都）のビジョンに共感し、今般の出資を決
定しました。

今後は、同社と協調して

国内

人口密度に応じた
小規模分散型処理方式の社会実装

諸外国

限りある水資源を有効活用できる
インフラシステムの普及

に取り組み、将来的には、当社が有する多様な技術
を生かした新たなインフラの開発・普及を通じて、
上下水に関わる諸課題の解決に貢献する考えです。

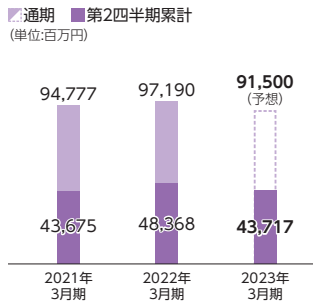
特装車

- ◎建設関連車両、物流関連車両、環境関連車両の売上が減少。
- ◎減収および鋼材価格の上昇等により減益。

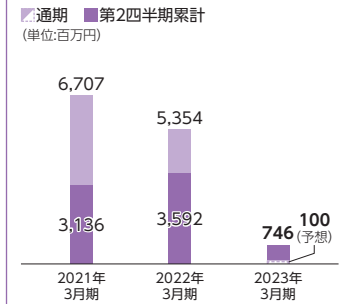
通期の見直し

需要は堅調を維持する中、下期に入って主要部品の調達遅れ等に伴う生産活動の停滞解消に想定より時間を要し、鋼材価格高騰の影響がさらに顕在化する見込み。

売上高



営業利益



「新明和 特装車スペシャルサイト」のご紹介

当社ウェブサイトのトップページから、「製品情報」→製品カテゴリーの「特装車」をクリックしていただくと、同事業部の主要製品や新製品情報をご覧いただけます。

この中に設けた「新明和 特装車スペシャルサイト」では、主要製品の長をダイナミックに紹介するコンテンツや、多様な部署で働く従業員インタビュー、塵芥車を製造する広島工場(広島県東広島市)をバーチャルに見学できるコンテンツでは、特装車のモノづくりの一端をご覧いただけます。



「新明和 特装車スペシャルサイト」は右記にアクセスしてご覧いただけます。



▲ 特装車事業部 広島工場 バーチャル工場見学

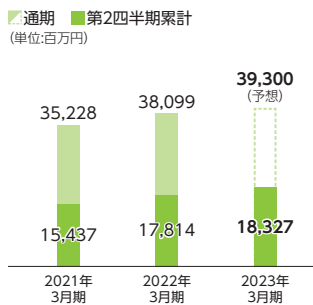
パーキングシステム

- ◎機械式駐車設備は、収益の柱である改修修理の減収により減益。
- ◎航空旅客搭乗橋は、増収により増益。

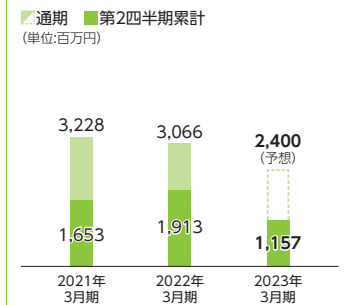
通期の見直し

機械式駐車設備の受注環境は底堅く、新設案件が順調に推移する中、収益の要である保守・改修工事に必要な電気部品の入荷遅れや資材費高騰等により、一時的に収益悪化を見込む。

売上高



営業利益



航空旅客搭乗橋「フルオートシステム」を伊丹空港にトライアル導入

大阪国際空港(通称・伊丹空港)に設置されている航空旅客搭乗橋は、全て当社が納めたものです。

2022年6月下旬、そのうちの2基(No.13BとNo.18A)に、「フルオートシステム(完全自動装着システム)」をトライアル導入しました。

これは、ボタン操作一つで航空旅客搭乗橋が対象となる旅客機に向かって自動走行し、機体ドアへの装着まで行える機能で、人員不足を課題とされる空港施設の高稼働率維持、定時運航を安全第一の視点でサポートするシステムです。2年のトライアル期間を経た後、正式運用を目指しております。



▲ 航空旅客搭乗橋(大阪国際空港)



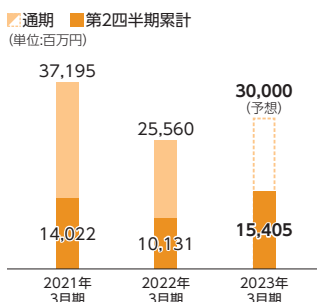
産機・環境システム

- ◎メカトロニクス製品は、真空製品の受注および売上が増加した結果、分野全体でも受注、売上が増加。
- ◎環境関連事業は、工事損失引当金の増加により減益。

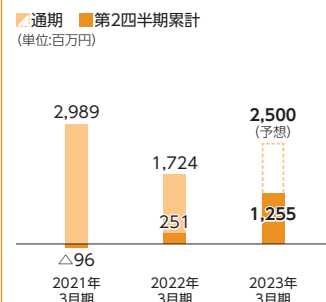
通期の見通し

主力の自動電線処理機に加え、EV市場向けリチウムイオン二次電池の製造に不可欠な真空乾燥装置を製造・販売する韓国真空(株)が大幅に受注、売上を伸ばし、環境関連事業も堅調を維持。

売上高



営業利益



※2021年3月期の業績は流体セグメントを含んでおります。

「宝塚市新ごみ処理施設等整備・運営事業」を受注

2022年10月、当社は、川崎重工業株式会社(以下、川崎重工)を代表企業とするグループの一員として、宝塚市(兵庫県)から掲題の事業を受注しました。

本事業では、現行の敷地内で現有施設を稼働させながら段階的に解体と新施設の建設を行う「スクラップ&ビルド方式」を採用し、2032年9月に全ての工事が完了する予定です。

総事業費約657億円と、工事期間・事業規模いずれも大掛かりな本事業において、当社は仮設リサイクル処理場とマテリアルリサイクル推進施設の設計・施工・運営業務を担当、完成後はグループ会社の新明和ウエステック株式会社、川崎重工殿、株式会社シンキ殿と共同で施設運営も担ってまいります。



▲宝塚市新ごみ処理施設 完成イメージ



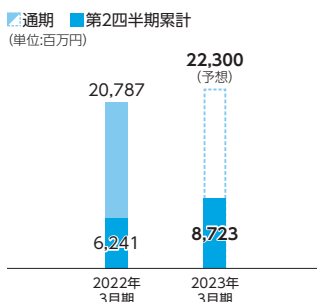
流体

- ◎前期に実施したM&A効果などにより受注および売上が増加。
- ◎増収により増益。

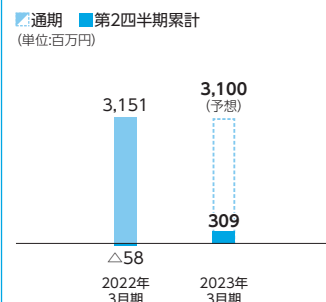
通期の見通し

国内官需関連は豪雨・浸水対策分野が伸長、また国内民需関連は主力のターボプロワの需要が増加。加えて海外市場も2021年度下期から連結対象に加わったTurboMAX社(韓国)を中心に収益貢献を見込む。

売上高



営業利益



「下水道展'22 東京」にリサイクルCFRPを用いた試作品を参考出展

当社は、2022年8月に東京ビッグサイトで開催された掲題の展示会に、リサイクルCFRP(炭素繊維強化プラスチック)を用いた縦型低動力攪拌機(下水処理場の処理工程に用いられる縦型の攪拌機)のプロペラを参考出展しました。

これは、流体事業部、航空機事業部と富士加飾殿がCFRPの再生技術の共同研究に取り組む一環で、航空機事業部の工程廃材を富士加飾殿の技術を用いて再生した素材を流体事業部がプロペラに加工したものです。

現在は、この再生素材を用いた量産品製造に向け、諸課題の解決に取り組んでいます。



▲再生CFRPを用いた、直径約2.5mある「縦型低動力攪拌機」のプロペラ(試作品)

※展示会向けに、炭素繊維が見えるよう一部(黒い部分)をスケルトン加工しています。

※「トップメッセージ」の「新事業創出に向けた取り組み」欄とあわせてご覧ください。



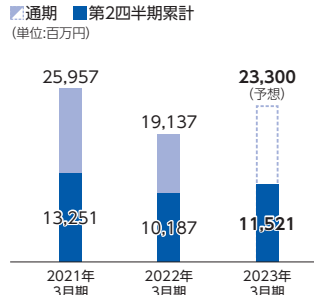
航空機

- ◎防衛省向けは前年同期並みの売上水準。
- ◎原価低減および為替の円安等により増益。

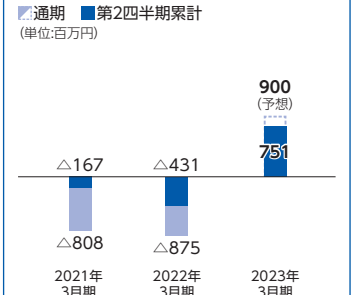
通期の見直し

民需関連では中大型機の市場回復が2023年度以降となる見通しの中、為替レート(USドル)の円安効果や近年のコスト削減効果等が奏功し、3期ぶりの黒字化を見込む。

売上高



営業損益



第1回ドローンサミットで無人飛行艇「XU-M」を展示飛行

2022年9月1日、2日の両日、神戸国際展示場(兵庫県)で開催された掲題イベントで、当社が今夏開発した無人飛行艇「XU-M」の展示飛行を行いました。

同機は、当社が長年培った飛行艇技術に基づき、飛行艇のセンシングとコントロールに関わる研究の推進、遠隔運用実績や海洋に関わる各種データの蓄積を目的として開発を進めています。

航空機事業部では、現在複数の開発機の研究に並行して取り組んでおり、新たなビジネス領域の拡大を目指す中、自社の技術を通じてさまざまな社会課題の解決に貢献したいと考えております。

◆「XU-M」の概要

機体タイプ	固定翼無人飛行艇
寸法	全長 3m × 全幅 4m × 全高 0.9m
推進系統	双発電動モータ・プロペラ
運用重量	25kg未満
巡航速度	17m/s



▲海上を移動する「XU-M」

展示飛行の動画は右記にアクセスしてご覧ください。



ESG活動報告 No.1 「統合報告書」を発行

2022年9月末、「統合報告書 2022」を発行しました。

当社グループにとって初となる本誌では、日々の経営活動をサステナブルな視点でご紹介しています。

当社グループは、長期視点に立った経営を志向し、2030年のあるべき姿を描いた「長期ビジョン」を定め、その実現に向けた長期経営計画を遂行中ですが、今後は統合報告書による年次報告を通じて、当社グループのサステナビリティ経営を体系的にご理解いただけるよう努めてまいります。

本誌では、トップメッセージ、財務担当役員メッセージ、社外取締役による鼎談のほか、事業活動やESGに関する活動とその状況を掲載しており、当社ウェブサイトからもご覧いただけます。



表紙解説

漫画家 今日マチ子さんが描く、「それじつは、シンメイワ。」シリーズ。

今回表紙に用いたのは、冬に向かう季節、流体事業部が納めた「排水ポンプ」のある街並みを描いたイラストです。2023年3月期から、これまで産機・環境システムセグメントに含めていた流体事業の業績を、単独セグメントとして開示しております。社会を「緑の下」で支える同事業の成長・グローバル展開も、長期経営計画[SG-Vision 2030]の要の一つです。



それじつは、シンメイワ。

本誌では、トップメッセージ、財務担当役員メッセージ、社外取締役による鼎談のほか、事業活動やESGに関する活動とその状況を掲載しており、当社ウェブサイトからもご覧いただけます。

会社概要

(2022年9月30日現在)

商号	新明和工業株式会社
設立年月日	1949年11月5日
資本金	15,981,967,991円
従業員数	3,173名
連結従業員数	6,069名

役員

(2022年9月30日現在)

役職名	氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
代表取締役 取締役社長	五十川龍之	取締役	苅田 祥史 ※1	常務執行役員	浅野 隆弘
取締役 副社長執行役員	石丸 寛二	取締役	長井 聖子 ※1	常務執行役員	中野 恭介
取締役 専務執行役員	田沼 勝之	取締役	梅原 俊志 ※1	常務執行役員	田中 浩一
取締役 専務執行役員	西岡 彰	監査役	西田 幸司	常務執行役員	小田 浩一郎
取締役 専務執行役員	久米 俊樹	監査役	島坂 忠宏	常務執行役員	田村 功一
取締役 専務執行役員	榎原 敬士	監査役	金田友三郎 ※2	執行役員	深井 浩司
		監査役	杵山 栄理 ※2	執行役員	富田 政行
		監査役	木村 文彦 ※2	執行役員	長尾 嘉嗣
				執行役員	中瀬 雅
				執行役員	新居 聡
				執行役員	榎本 石原
				執行役員	秀朝

〔※1〕は社外取締役、〔※2〕は社外監査役を示しております。

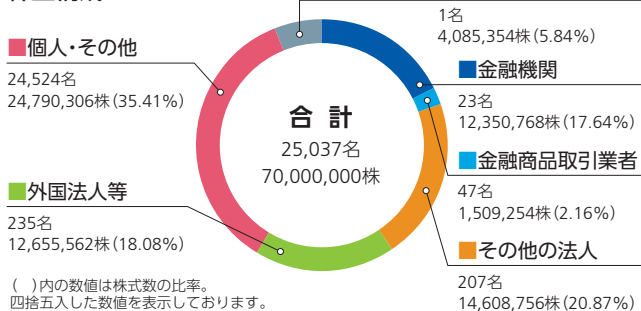
株式情報

(2022年9月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	300,000,000株
発行済株式の総数	70,000,000株
単元株式数	100株
株主数	25,037名

株主構成



大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
三信株式会社	7,809,065	11.84
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,692,000	11.66
新明和グループ従業員持株会	2,950,011	4.47
株式会社日本カस्टディ銀行(信託口)	2,857,600	4.33
住友不動産株式会社	1,837,800	2.78
東洋ビルメンテナンス株式会社	1,391,300	2.11
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	927,800	1.40
JP MORGAN CHASE BANK 385781	732,217	1.11
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/JANUS HENDERSON HORIZON FUND	730,100	1.10
東プレ株式会社	719,000	1.09

(注) 持株比率は、自己株式数(4,085,354株)を控除して計算するとともに、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人/特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.shinmaywa.co.jp/ (ただし、やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。)

配当金

2023年3月期の期末配当(予想)につきましては、21円を予定しております。
この結果、年間配当金(予想)は、中間配当の21円と合わせて、42円(連結配当性向:49.4%)となる予定です。

株主の皆さまの声を聞かせください

当社では、株主の皆さまの声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。(所要時間は5分程度です)

- ①下記URLにアクセス
- ②アクセスコード入力後にアンケートサイトが表示

<https://www.e-kabunushi.com>

アクセスコード 7224

……以下の方法でもアンケートにアクセスできます……

検索窓から

kabu@wjm.jp ←こちらへ空メールを送信
[件名][本文]は無記入。アンケートのURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(QUOカードPay500円)を進呈させていただきます



本アンケートは、株式会社リンクコーポレートコミュニケーションズの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
<https://www.link-cc.co.jp>
●アンケートのお問い合わせ e-株主リサーチ事務局
MAIL: info@e-kabunushi.com (2201)

各種手続きについて

証券会社等に口座をお持ちの方

口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。なお、以下のお手続き等につきましては、下欄の株主名簿管理人にお問い合わせください。

- 郵送物等の発送と返戻に関するご照会
- 支払期間経過後の配当金に関するご照会
- 株式事務に関する一般的なお問い合わせ

特別口座に口座をお持ちの方

下欄の株主名簿管理人/特別口座管理機関にお問い合わせください。

株主名簿管理人/特別口座管理機関

〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 (通話料無料)

「Investor's Report」 発行頻度に関するお知らせ

これまで、第1および第3四半期にハガキ形式の株主通信を送付しておりましたが、お届けできる時期や情報量に鑑みまして、今年度から発行を中止いたしました。
株主の皆様におかれましては、当社ウェブサイトや、第2および第4四半期に発行する本レポート等で当社の活動状況をご確認いただきますよう、ご理解のほどよろしくお願いたします。